

学力向上だより No. 2

戸田第一小学校 学力向上拠点形成事業通信

海や山の恋しい季節になってきました。小学校の1学期も残りわずかとなりますが、保護者の皆様には日頃より戸田第一小学校の活動にご支援を頂いております。大変ありがとうございます。

さて、本号では本校の特別支援教育の取組についてお知らせ致します。

1、特別支援教育とは

「特別支援教育」とは、児童一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものです。

2、本校での取組

本年度の「特別支援教育パート」は各学年の担任よりそれぞれ1名ずつ、学年に所属しない担任外の教員、および「まめの木学級」の担任から構成されています。

具体的な取組としましては、研究主題の「『学ぶ楽しさ ふれ合う喜び』を味わう授業づくりを目指して ～児童のつまずきやわかり方の探求～」に迫るため、

- ①特別支援学級（まめの木学級）における、児童のつまずきに対する指導のあり方
- ②通常の学級のうち、支援を必要とする児童のつまずきに対する指導のあり方

を中心に研究を進めています。

4月26日には全職員を対象に校内全体研修会を行い、講師に埼玉県立総合教育センターの藤村英一郎先生をお招きし「特別支援教育の視点と学習指導」と題し講演をしていただきました。その内容を抜粋してお知らせ致します。



講演「特別支援教育の視点と学習指導」

県総合教育センター 藤村英一郎先生

I 「特別支援教育元年」とは

- これまで「盲学校」・「聾学校」・「養護学校」等と個々に学校があったが、それが「特別支援学校」となり、様々な児童・生徒たちに対応していくことになる。
- 小中学校の通常の学級に在籍する支援が必要な児童・生徒に対して、特別支援学校の指導・助言等を受けながら、適切な指導、支援を行う「特別支援教育」が推進される。

II 子どもの発達の特徴

- 学習を通し、認知能力（物事を理解し行動する力）、言語能力、対人関係能力等、他の様々な能力は自然に発達する。
 - ・「分かること」「分かる楽しさ」が学習への動機付け、促し、さらに認知能力を高める。
 - ・「分かった」ということが行動になる。「分かった」→「できた！」
 - ・「分かった」「できた」という成功体験が大切。それが記憶を促す。
- 「三つ子の魂、百まで」～特に乳幼児期（3歳頃まで）は重要～
 - ・後の成長・発達の基盤（脳の基本構造）が3歳までに形成される。
 - ・ルール（規範意識）は親の行動にもある。
例えば、「子どもときちんと横断歩道を渡る。」「信号を守る」などの行動が「社会のルールを守る」という、子どもの「規範意識」をつくる。

III 「百聞は一見に如かず」 ～学習の出発点は、見せた方が早い！～

- 今の子どもたちは「テレビ世代」。聞いた言葉からイメージを受ける。言葉だけの説明だけでは子どもは離れてしまうのは、仕方のないこと。
 - ・言葉（説明）により伝わる情報は 8%
 - ・声（耳）から伝わる情報は 37%
 - ・外見など（目）から伝わる視覚的情報は 5.5%
- 「見る力」の強さと「話を受け止める力」の弱さ。
 - ・最近ではテレビでもテロップが多い。（説明を聞かなくても、見ただけで分かる。）
 - ・視覚に訴え、他の感覚をどう使わせるかが大切。

IV 「自己有能感」と「自己有用感」を高めるための支援・手だて

○学校生活で成功体験を積ませる。

- ・縦割り集団活動（下級生のお世話をすることが、自信につながる。）
- ・社会体験活動（「できた」の満足感）

自分にもできる！」と実感できることが意欲につながる。

●自尊心や自己有能感の低下に要注意

表情や行動に「自信喪失」「なげやり」な様子が表れる。

→それによっておこる、病気や引きこもり等を阻止しなければならない。

V 個に応じた支援

○子どもと一緒に「できること」からスタートしよう。

→スモールステップで（目標や課題設定は、可能なものを、段階を踏んで与える。）

○関係作り…声をかける。話を聞く。

○個に応じた配慮、対応・・・特性と個性をよく見る。

VI 特別支援の視点を学習指導に生かす

○その子がやりたいやり方でやる。（みんなが同じようにできるわけではない。）

できなかつた子は違うやり方を自分で（または教師などが）考えてやる。

○その子に合ったやり方でやる。（視覚・聴覚的に訴えたほうが効果がある場合も）

○短く具体的な指示、簡潔・明瞭な話し方をすること。（長い言葉は効果がない。）

○新しいことを学習するときには、過去の体験や経験を想起させ、考えさせるとよい。

☆ 6月28日（木）に「まめの木学級」4クラス合同で「題材学習 体育」の授業研究会を行いました。

その様子につきましては「10月の学力向上便り」にてお知らせします。

